

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年6月30日
【事業年度】	第17期（自平成28年4月1日至平成29年3月31日）
【会社名】	株式会社アルファポリス
【英訳名】	AlphaPolis Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 梶本 雄介
【本店の所在の場所】	東京都渋谷区恵比寿四丁目20番3号 恵比寿ガーデンプレイスタワー5F
【電話番号】	03-6277-1602
【事務連絡者氏名】	取締役兼管理本部本部長 大久保 明道
【最寄りの連絡場所】	東京都渋谷区恵比寿四丁目20番3号 恵比寿ガーデンプレイスタワー5F
【電話番号】	03-6277-0123
【事務連絡者氏名】	取締役兼管理本部本部長 大久保 明道
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次		第13期	第14期	第15期	第16期	第17期
決算年月		平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月
売上高	(千円)	1,454,583	2,046,227	2,664,274	3,345,752	3,185,536
経常利益	(千円)	484,177	644,344	771,209	904,376	175,242
当期純利益	(千円)	294,385	393,498	455,606	572,404	101,098
持分法を適用した場合の 投資利益	(千円)	-	-	-	-	-
資本金	(千円)	10,000	10,000	863,824	863,824	863,824
発行済株式総数	(株)	200	20,000	4,843,700	4,843,700	4,843,700
純資産額	(千円)	683,210	1,076,708	3,239,964	3,812,368	3,913,467
総資産額	(千円)	1,454,495	2,054,679	4,592,565	5,275,301	4,959,803
1株当たり純資産額	(円)	170.80	269.18	668.90	787.08	807.95
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額)	(円)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
1株当たり当期純利益金額	(円)	73.60	98.37	104.97	118.18	20.87
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額	(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率	(%)	47.0	52.4	70.5	72.3	78.9
自己資本利益率	(%)	54.9	44.7	21.1	15.0	2.6
株価収益率	(倍)	-	-	18.86	30.51	66.40
配当性向	(%)	-	-	-	-	-
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	65,456	324,079	143,121	379,747	26,202
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	5,359	2,901	53,092	251,628	87,404
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	31,394	2,265	1,673,101	31,038	33,228
現金及び現金同等物の 期末残高	(千円)	388,809	712,252	2,475,383	2,572,464	2,478,034
従業員数 (外、平均臨時雇用者数)	(人)	19 (6)	28 (8)	40 (9)	54 (11)	52 (11)

- (注) 1. 当社は連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
 3. 持分法を適用した場合の投資利益については、当社は関連会社を有していないため記載しておりません。
 4. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
 5. 第13期及び第14期の株価収益率については、当社株式は非上場であるため、記載しておりません。
 6. 当社は、平成26年1月16日開催の取締役会決議により、平成26年2月10日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行い、平成26年8月8日開催の取締役会決議により、平成26年8月25日付で普通株式1株につき200株の株式分割を行っておりますが、第13期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。

2【沿革】

当社（株式会社アルファポリス）は平成12年8月に設立され、「インターネット上で人気のある小説・漫画等のコンテンツ（注）を書籍化する」という既存出版社とは異なる、新しいビジネスモデルを創造して事業を営んでまいりました。その後、当社のITを活用したユニークなビジネスモデルが評価され「第7回ニッポン新事業創出大賞」のアントレプレナー部門におきまして最優秀賞を受賞いたしました。また、平成27年5月には、経済産業省及び東京証券取引所が創出した「攻めのIT経営銘柄」にも選定されました。

設立以降の当社に係る経緯は以下のとおりであります。

平成12年8月	渋谷区恵比寿において資本金1,000万円で株式会社アルファポリスを設立
平成12年9月	書籍出版化支援サービス「ドリームブッククラブ」の開始
平成15年2月	事務所を品川区上大崎に移転
平成16年3月	渋谷区恵比寿に株式会社レーヴック（100%子会社）を設立
平成16年4月	事務所を渋谷区桜丘町に移転
平成19年10月	当社名を冠した「アルファポリス文庫」を創刊
平成20年1月	読者からの投票結果に加え、作家からの出版申請をもとにした出版制度を開始
平成20年2月	第1回「Webコンテンツ大賞」を開催
平成20年7月	設立からの新刊書籍発行点数累計が100点を突破
平成20年12月	事務所を渋谷区恵比寿南に移転
平成21年9月	大人の女性のための恋愛小説レーベル「エタニティブックス」を創刊
平成22年7月	書籍出版化支援サービス「ドリームブッククラブ」の募集終了
平成22年8月	事務所を目黒区目黒に移転
平成22年11月	新感覚ファンタジー小説レーベル「レジーナブックス」を創刊
平成23年11月	設立からの新刊書籍発行点数累計が300点を突破
平成24年4月	事務所を渋谷区恵比寿に移転
平成24年10月	「第7回ニッポン新事業創出大賞」アントレプレナー部門にて最優秀賞を受賞
平成25年1月	株式会社レーヴックを吸収合併
平成25年1月	設立からの新刊書籍発行点数累計が500点を突破
平成26年2月	甘く危険なラブロマンスレーベル「ノーチェブックス」を創刊
平成26年10月	東京証券取引所マザーズに株式を上場
平成26年11月	設立からの新刊書籍発行点数累計が1,000点を突破
平成27年1月	投稿作品の人気度に応じ、作家に報酬を支払うサービス「投稿インセンティブ」を開始
平成27年5月	自社開発によるゲーム事業を開始
平成27年5月	経済産業省及び東京証券取引所が創出した「攻めのIT経営銘柄」に選定
平成28年2月	設立からの新刊書籍発行点数累計が1,500点を突破
平成28年4月	当社Webサイトにて課金サービスを開始
平成29年2月	当社コンテンツ閲覧アプリ内において、これまで書籍化に伴い非公開処理又はダイジェスト化していた作品を一定期間に限り閲覧することが出来る「レンタル」サービスを開始
平成29年4月	設立からの新刊書籍発行点数累計が2,000点を突破

（注）コンテンツ：インターネットやデジタル放送などの電子媒体を通じてやり取りされる、小説・漫画・映画・音楽・ゲームなどの情報。

3【事業の内容】

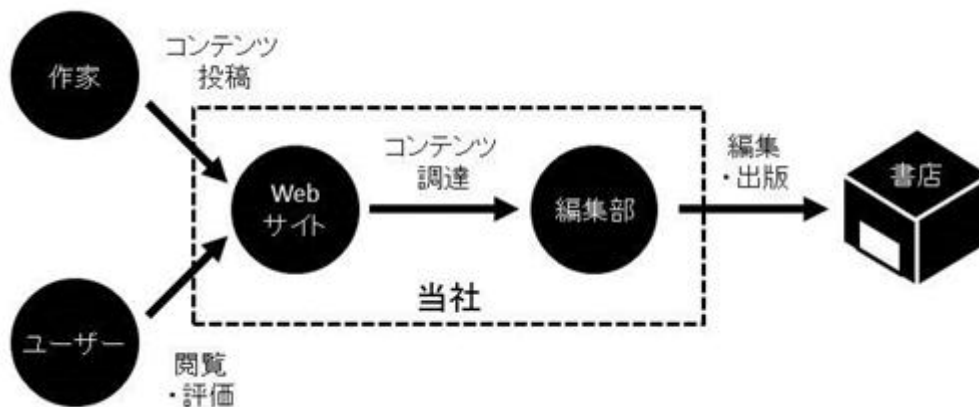
当社は創業以来「これまでのやり方や常識に全くとらわれず」、「良いもの面白いもの望まれるものを徹底的に追求していく」というミッションの下、インターネット時代の新エンターテインメントを創造することを目的とし、インターネット上で話題となっている小説・漫画等のコンテンツを書籍化する事業を営んでおります。

また、出版事業を通して蓄積した自社IP（小説、漫画、キャラクターなど）を活かしたオリジナルゲームの開発・運用事業も営んでおります。

A. 出版事業

1. ビジネスモデル

当社は、当社が運営しておりますインターネット上のWebサイトに投稿された小説・漫画等のコンテンツの内から、サイト内でのユーザー評価を参考に、書籍として出版すべきコンテンツを調達しております。調達後は、編集部において、コンテンツの品質・商品力を向上させた後、書籍として出版することで収益をあげております。そのビジネスモデルのイメージは次のとおりです。



当社のビジネスモデルは既存の出版社と、書籍となるコンテンツの調達元、及び、書籍化すべきコンテンツの選定方法が異なっていることが特徴です。

書籍となるコンテンツの調達元

インターネット環境が整備されることで、個人が作成したコンテンツをインターネット上に公開することが容易となり、インターネット上には多くのコンテンツが現れてきております。当社は、そのインターネット上からコンテンツを調達することにより安定的に多数の書籍化が可能となっております。

書籍化すべきコンテンツの選定方法

当社はインターネット上での多数のユーザー評価を参考に、一定以上の読者ニーズを見極めた上で、当社編集部内で当社刊行書籍のジャンルとの親和性や書籍市場の動向等もあわせ総合的に判断し、書籍化すべきコンテンツの選定を行っております。そのため、書籍刊行に要した費用を回収するだけの売上高が確保できないリスクの低減が可能となっており、また、そのような不用意な書籍化を回避することにより、限りある経営資産の有効活用が図れております。

一方で、当社のビジネスモデルは、インターネット上にて良質なコンテンツが数多く収集でき、かつ、多くのユーザーにより多角的に評価されることで出版時の成功率が事前に高められることを前提に成り立っておりますので、継続的な新規コンテンツ、及びユーザーの確保が必要不可欠となっております。

そのため、当社Webサイトでは、作家及びユーザーの双方にとって魅力的なサービスである「Webコンテンツ大賞（毎月、最も読者に人気のあるコンテンツ及び当社編集部内で最も評価の高いコンテンツを選出し、賞金の贈呈に加えて受賞作として書籍化を検討。加えて、投票したユーザーに対しても抽選で賞金を贈呈。）」の実施や、書籍化を目指す作家の積極的なチャレンジを促す「出版申請制度（当社Webサイト内で、一定以上の人気を博しているコンテンツの場合、その作家は当社に対して書籍化の検討を依頼することができる制度。）」及び「投稿インセンティブ（投稿作品の人気度に応じ、その作家に対して報酬（Amazon ギフト券など）をお支払いする制度。）」の実施等、作家にとって魅力的なサービスやイベントを開催することにより、コンテンツの拡充に努めております。

2. 取扱書籍

当社が取り扱っている書籍は(1)ライトノベル(表紙や挿絵にアニメ調のイラストが用いられており、また一般の小説より軽妙な文体でストーリーが描かれている小説)、(2)漫画、(3)文庫、(4)その他書籍、の4つのジャンルに分けられます。

(1) ライトノベル

ライトノベルは、当社出版事業売上高の約53%を占める非常に重要なジャンルとなります。なお、当社ライトノベルは文庫本サイズではなく、単行本サイズ(文庫本より大きく、高価格)であることが特徴となっております。

同ジャンルは更にターゲット読者ごとに3つに分けることができます。

20代後半から30代の男性向けのライトノベル

10代向けの文庫ライトノベルを卒業したと言われる、20代後半から30代の男性をターゲットとした単行本書籍を刊行しております。

代表作としては、シリーズ発行部数累計(注)420万部を超え、平成27年7月にはTVアニメ化された『ゲート』や、シリーズ発行部数累計127万部を超える『レイン』が挙げられます。これら2作品以外にも、シリーズ発行部数累計30万部を超えるヒット書籍を複数刊行しております。(『Re:Monster』同累計51万部、『とあるおっさんのVRMMO活動記』同累計49万部、『月が導く異世界道中』同累計45万部等)

平成21年9月に創刊した30代から40代の女性向け恋愛小説(エタニティブックス)

従来の恋愛小説書籍の市場は、10代から20代をターゲットとした恋愛小説や海外ロマンスが主流であり、30代から40代の女性向け、かつ、日本人が主人公の恋愛小説はあまり取り扱われていなかったと認識しております。一方、インターネット上では、そうした作品が多く生み出されておりましたので、当社のビジネスモデルにより、これらの作品の書籍化を行っております。

代表作としては、シリーズ発行部数累計27万部を誇る『ナチュラルキス』や、同累計8万部の『恋愛台風』が挙げられます。

平成22年11月に創刊した20代から30代の女性向け新感覚ファンタジー小説(レジーナブックス)

従来のファンタジー小説書籍の市場は、児童書から派生した作風のものが主流であり、ゲーム世代である20代から30代の女性をターゲットとしたファンタジー小説は少数であったと認識しております。そのため、当社では主人公が女性であり、ゲームで描かれるファンタジー世界を舞台とした20代から30代の女性向けファンタジー小説を刊行しております。

代表作としては、シリーズ発行部数累計37万部を達成した『異世界でカフェを開店しました。』、及び同累計28万部の『リセット』並びに同累計17万部の『ダイテス領攻防記』が挙げられます。

(2) 漫画

平成24年から本格的に取り扱いを開始している比較的新しいジャンルとなります。

漫画では、当社のライトノベルで人気を博した作品(『ゲート』、『Re:Monster』、『とあるおっさんのVRMMO活動記』等)の漫画化(二次出版)を行っております。二次出版に至るまでには、原作であるライトノベルの人気を確認するだけでなく、漫画化された作品を当社Webサイト上で公開し、一定以上の人気があることを確認するプロセスを踏んでおりますので、出版時の成功率が事前に高められていることが特長といえます。また、漫画として二次出版することにより、原作であるライトノベルの売上高の増加が期待できることも特長といえます。

その一方で、漫画を更に成長させるためには「オリジナル漫画」の育成が必要であるとの考えから、当社ビジネスモデルを漫画にも適用することで、Web発となる次世代作家の発掘・育成にも積極的に取り組んでおります。

(3) 文庫

ライトノベルやその他書籍のジャンルから刊行された単行本の廉価版として、文庫本化を行っております。

文庫本化することで、単行本の価格帯では躊躇していた読者層に対しても販売機会を逃さず、収益の最大化に努めております。また文庫本化は単行本刊行から一定期間を経過した後に行っておりますので、シリーズ系の場合、文庫本化を待ちきれず単行本を購入される読者も多数存在し、客単価の向上にも繋がっております。

(4) その他書籍

その他書籍には、ライトノベルに属さない一般文芸書、ビジネス書、絵本等が含まれます。

一般小説の代表作としては、平成26年5月に刊行した『居酒屋ぼったくり』（各種メディアに取り上げられております。シリーズ発行部数累計48万部。）、『Separation』（TVドラマ「14ヶ月」の原作となると共に、発行部数12万部を突破し、世界7カ国で翻訳出版しております）及び『虹色ほたる』（映画化されると共に、シリーズ発行部数累計40万部を突破）が挙げられます。

（注）シリーズ発行部数累計：同作品の続編に加え、同作品が漫画化された場合、又は、文庫化された場合には、その漫画、及び、文庫を含む発行部数の合計。

3. 主なヒット作品と他メディア展開作品

当社の作品のうち、シリーズ発行部数累計100万部を突破した作品又は他のメディアに展開した作品は以下のとおりです。なお、当社は作品の二次的利用に関する権利を有しており、他メディア展開の際にはそのメディア媒体と交渉する窓口となっております。

作品名	作家	ジャンル	実績
Separation	市川拓司	一般文芸書	日本テレビ系列にて連続テレビドラマ化（平成15年7月） 発行部数累計12万部 世界7カ国で翻訳出版
レイン	吉野 匠	男性向けライトノベル	株式会社マッグガーデンより漫画化 シリーズ発行部数累計127万部
虹色ほたる	川口雅幸	一般文芸書 ・漫画（児童書）	東映アニメーションにより映画化（平成24年5月） 当社より漫画化 シリーズ発行部数累計40万部
THE QUIZ	梶本孝思	男性向けライトノベル・漫画	日本テレビにてドラマ化（平成24年9月） 当社より漫画化 シリーズ発行部数累計7万部
ゲート	柳内たくみ	男性向けライトノベル・漫画	TVアニメ化（平成27年7月） 当社より漫画化 シリーズ発行部数累計420万部
Re:Monster	金斬兎狐	男性向けライトノベル・漫画	スマホゲーム化（平成28年2月） 当社より漫画化 シリーズ発行部数累計51万部
とあるおっさんのVRMMO活動記	椎名ほわほわ	男性向けライトノベル・漫画	PCブラウザゲーム化（平成28年4月） 当社より漫画化 シリーズ発行部数累計49万部
THE NEW GATE	風波しのぎ	男性向けライトノベル・漫画	スマホゲーム化（平成28年10月） 当社より漫画化 シリーズ発行部数累計35万部

4. 当社Webサイトの累計コンテンツ数

当社ビジネスモデルの基幹となる当社Webコンテンツ数は、当事業年度に開始いたしました「レンタルサービス」など、様々な施策を展開することで順調に推移しております。

平成28年度末時点において、当社Webサイト内のコンテンツ数累計は39,164点となっております。

5. 書籍の販売物流業務

当社は、将来的にはコンテンツを活かした多角展開を見据えておりますので、限られた経営資源は編集等に注力すべきだとの考えから、書店と出版社をつなぐ流通業者（以下、「取次」という。）との取引業務は、仲介業者（以下、「中取次」という。）を介して行っております。

なお、各書店への販促活動、市場動向の調査を主な目的とした書店営業は、基本的には当社で実施しております。（首都圏以外の地方営業は効率性の観点から外部業者に委託しております。）

B. ゲーム事業

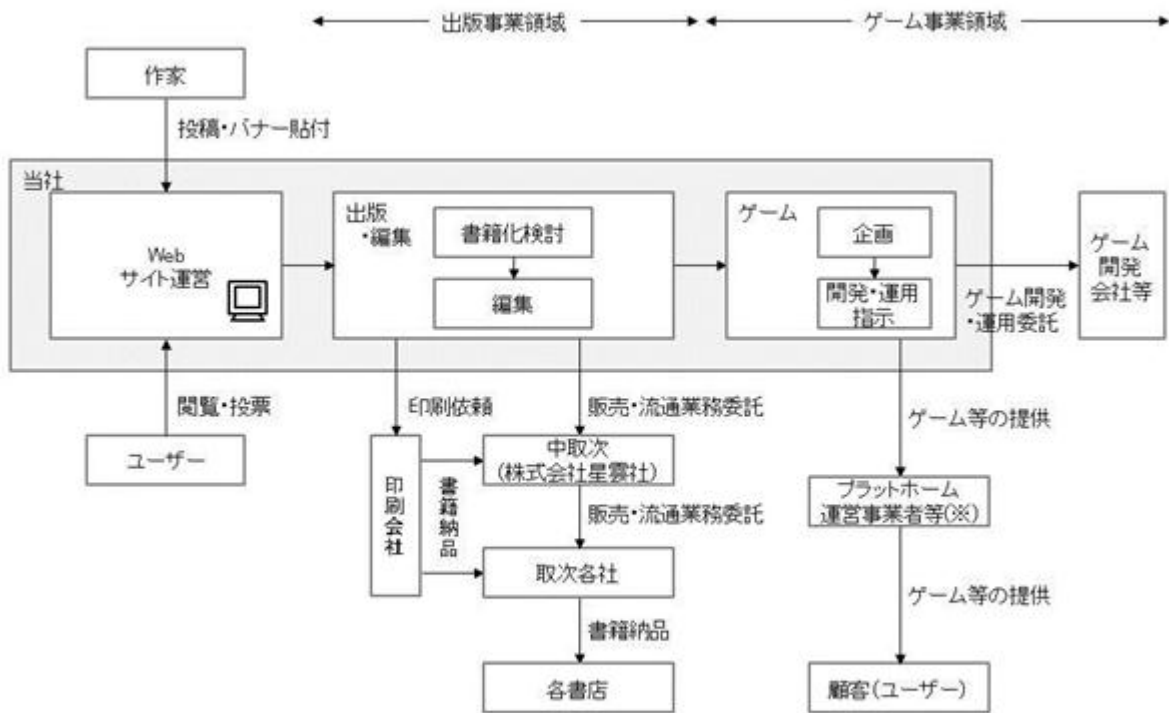
出版事業を通して蓄積した自社IP（小説、漫画、キャラクターなど）を活かしたオリジナルゲームの開発・運用を行っております。ゲームの提供は、スマートフォン向けアプリ（ネイティブ）、及びPCブラウザゲームの2種類で展開しております。本ゲーム事業は、ゲーム事業単体の売上高拡大に寄与するだけでなく、メディアミックスによる相乗効果により、原作となる小説及び漫画の売上高の拡大にも寄与すると考えております。

当社がこれまでに提供した主なゲームは以下のとおりであります。

区分	ゲームタイトル	リリース年月	提供プラットフォーム	ゲーム内容
ネイティブアプリ	リ・モンスター (Re:Monster)	平成28年2月	App Store (iOS) Google Play (Android) AndApp	本格リアルタイムRPG
	THE NEW GATE	平成28年10月	App Store (iOS) Google Play (Android)	本格バトルRPG
PCブラウザゲーム	ワンモア・フリー ライフ・オンライン	平成28年4月	当社ゲームプラットフォーム ハンゲーム ニコニコアプリ mixiゲーム	生産型RPG

[事業系統図]

以上述べた事項を事業系統図によって示すと次のとおりです。



※当社では、当社Webサイト上においてPCブラウザゲームの提供も行っております。
その場合には、「プラットフォーム運営事業者等」は、当社となります。

4【関係会社の状況】

該当事項はありません。

5【従業員の状況】

(1) 提出会社の状況

平成29年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
52(11)	35.3	3.5	5,303

セグメントの名称	従業員数(人)
出版事業	29 (6)
ゲーム事業	5 (-)
全社(共通)	18 (5)
合計	52 (11)

(注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数(パートタイマーを含む。)は、年間の平均人員を()外数で記載しております。

2. 平均年齢及び平均勤続年数は、臨時雇用者数(パートタイマーを含む。)を含めずに算定し、表示単位未満を四捨五入し表示しています。

3. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(2) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は良好です。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1)業績

当事業年度（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀による金融政策による雇用情勢の改善から全体的に緩やかな回復基調が続いており、個人消費は総じてみれば持ち直しの動きが続いております。

しかしながら、当社が属する出版業界におきましては、厳しい状況が続いております。出版科学研究所によると、平成28年の出版物の推定販売金額は、前年比3.4%減となる1兆4,709億円となりました。その内訳は、紙の「書籍」が同0.7%減となる7,370億円、「雑誌」は同5.9%減の7,339億円となっており、「雑誌」が特に厳しく、「雑誌」は「書籍」の売り上げを41年ぶりに下回る結果となりました。一方、電子出版物については、平成28年の電子出版市場は1,909億円となり、前年比27.1%増となる大幅な成長を遂げております。

こうした環境の中、インターネット発の出版の先駆者である当社は、「これまでのやり方や常識に全くとらわれず」、「良いもの面白いもの望まれるものを徹底的に追求していく」というミッションの下、インターネット時代の新しいエンターテインメントを創造することを目的とし、インターネット上で話題となっている小説・漫画等のコンテンツを書籍化する事業に取り組んでまいりました。また、出版事業を通して蓄積した自社IP（小説、漫画、キャラクターなど）を活かしたオリジナルゲームを開発・運用する事業等にも積極的に取り組んでまいりました。

当事業年度におけるセグメント別の業績は、次のとおりであります。

なお、当事業年度より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前事業年度比較は、前事業年度の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

出版事業

出版事業におきましては、編集部員の増強及び当社ビジネスモデルの基幹となる当社Webサイトの強化により、当事業年度における、出版点数は469点（前期比56点増）となり、着実に成果を上げることが出来ました。また、当社コンテンツ閲覧アプリでの新サービス「レンタル」を含む、電子書籍専用端末やスマートフォン向けの電子書籍販売に対しても積極的に取り組むことで、新たな収益源の獲得にも努めてまいりました。

しかしながら、第1四半期会計期間及び第2四半期会計期間において当初想定以上の『ゲート』関連書籍の返本が発生し、収益を圧迫いたしました。加えて、ライトノベル市場への新規参入が活発化し、競争が激しくなってきたことなどにより、1タイトル当たりの発行部数が減少し、収益性が低下いたしました。

以上により、当事業の売上高は2,800,153千円（前期比15.2%減）、セグメント利益は772,078千円（同39.7%減）となりました。

書籍のジャンル別概況は次のとおりであります。

（ライトノベル）

当社の主力であるライトノベル市場は、書籍市場が縮小傾向にあるにも関わらず、拡大傾向にあります。しかしながら、昨今では新規参入が活発化し、他社から刊行される点数やレーベルともに増加傾向にあり、競争が激しくなってきました。

その結果、当事業年度において、刊行点数は236点と前期比21点増となりましたが、発行部数2万部を超える作品は16作品とやや軟調となり、売上高は前事業年度を下回る結果となりました。一方で、当社Webサイトへの投稿作品の中から『素材採取家の異世界旅行記』や『転生王子はダラけたい』に代表されるヒット作を刊行するという将来の成長に向けた礎を築くことも出来ました。

（漫画）

第1四半期会計期間及び第2四半期会計期間において当初想定以上の『ゲート』関連書籍の返本が発生し、収益を圧迫いたしました。しかしながら、第3四半期会計期間以降は、本書籍の返本が収束したことに加え、同作以外の漫画の売行きが好調であったことから、出版事業の売上を牽引いたしました。

将来において書籍刊行の元となるWeb連載漫画は堅調に連載数を拡大しており、当事業年度では、新たに31本のWeb連載を開始し、当事業年度末のWeb連載漫画本数は49本となりました。中でも、これまで当社刊行小説のコミカライズが主であったWeb連載漫画において、当社サイトへの投稿作品の中から3作のオリジナル漫画（『柳生烈堂地獄旅』、『ぼくらのめいきゅー』及び『IRON CRY』）を公式Web連載漫画として連載できたことは、今後の更なる成長の足掛かりとなる実績であるといえます。

(文庫)

啓文堂書店様で実施されておりました、「2016年 雑学文庫大賞」にてアルファポリス文庫『考えすぎない』(初版：平成23年5月刊行)が大賞を受賞いたしました。その結果、本書籍は、本書提出日現在において22刷、発行部数11.8万部となるロングセラーヒット作に成長いたしました。一方で、漫画と同様、第1四半期会計期間及び第2四半期会計期間において当初想定以上の『ゲート』関連書籍の返本が発生し、収益を圧迫いたしました。加えて、ライトノベル市場では相次ぐ新規参入により競争が激化していることから、単行本の廉価版として販売している文庫においても1タイトル当たりの発行部数が減少する傾向となりました。

これらの結果、文庫全体の売上高は、前事業年度を下回る結果となりました。

(その他)

当事業年度では、戦略的に強化を行っている「ビジネス」ジャンルからの刊行点数は、5点となりました。加えて、一般文芸『居酒屋ぼったくり』は巻を重ねても依然として人気は衰えず、各種メディアに取り上げられたことも追い風となり、シリーズ発行部数累計は48万部を突破いたしました。一方で、ライトノベルと同様、競争環境は厳しくなっていることから、全体的に収益性は低下いたしました。

これらの結果、その他全体の売上高は、前事業年度を下回る結果となりました。

ゲーム事業

スマホアプリ『リ・モンスター(Re:Monster)』は、平成29年2月に実施したリリース1周年記念キャンペーンが好評となり、同2月は単月では過去最高の売上高となりました。その他、平成29年1月には株式会社ディー・エヌ・エーが運営する“スマホアプリをPCで遊べるプラットフォーム”『AndApp』への配信を開始し、販路拡大に向けた取り組みも行ってまいりました。また、『Re:Monster』は翻訳出版などの効果により、米国や台湾などを筆頭に海外でも人気が高いことから、平成29年2月には、アプリ内に、英語、中国語・繁体字の言語オプションを追加し、ユーザー及び売上高の拡大に大きく貢献いたしました。

一方で、平成28年10月にリリースいたしましたスマホアプリ『THE NEW GATE』は、リリース直後のサーバー不具合により急速に売上が減少し、様々な施策を講ずるものの売上は厳しい結果となりました。今後は、データ分析結果等を通じてユーザーにとって魅力的な機能実装・イベント開催を行うことにより、売上の回復を図る計画です。

また、平成29年3月には、シリーズ発行部数累計37万部を超える人気作『異世界でカフェを開店しました。』のIPを活用した新作スマホアプリ『異世界でカフェを開店しました。』の事前登録を開始いたしました。

平成28年4月に正式サービスを開始いたしましたPCブラウザゲーム『ワンモア・フリーライフ・オンライン』については、年末商戦等のイベントにより一時的に売上高が回復する場面もありましたが、全体的にはユーザー数や滞留率が徐々に低下してきており、売上は厳しいものとなりました。

これらの結果、当事業の売上高は385,383千円(前期比760.6%増)、セグメント損失は208,163千円(前事業年度は46,170千円のセグメント損失)となりました。

以上の活動の結果、当事業年度の売上高は3,185,536千円(前期比4.8%減)、営業利益は174,101千円(同80.8%減)、経常利益は175,242千円(同80.6%減)、当期純利益は101,098千円(同82.3%減)となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当事業年度末における現金及び現金同等物の残高は前事業年度末より94,429千円減少し、2,478,034千円となりました。当事業年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは26,202千円の収入(前事業年度は379,747千円の収入)となりました。この主な要因は、税引前当期純利益が175,242千円、減価償却費が176,943千円、売上債権の減少が184,631千円、及び法人税等の支払額が431,756千円発生したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは87,404千円の支出(前事業年度は251,628千円の支出)となりました。この主な要因は、スマホアプリ等のソフトウェアの制作費等による無形固定資産の取得による支出が94,240千円、及び『ゲート』のTVアニメ制作委員会に対する出資金の回収による収入が26,432千円発生したことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは33,228千円の支出(前事業年度は31,038千円の支出)となりました。これは、長期借入金の借入れによる50,000千円の収入がある一方で、長期借入金の返済による83,228千円の支出が発生したことによるものであります。

2【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当事業年度の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

なお、ゲーム事業につきましては、提供するサービスの性格上、生産実績の記載になじまないため、当該記載を省略しております。

セグメントの名称	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	前年同期比(%)
出版事業(千円)	3,799,431	82.5
ゲーム事業(千円)	-	-
合計(千円)	3,799,431	82.5

(注) 1. 金額は販売価格によっており、セグメント間の内部振替前の数値によっております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注状況

受注生産を行っておりませんので、受注状況に関する記載はしておりません。

(3) 販売実績

当事業年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	前年同期比(%)
出版事業(千円)	2,800,153	84.8
ゲーム事業(千円)	385,383	860.6
合計(千円)	3,185,536	95.2

(注) 1. 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)		当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
株式会社星雲社	3,198,805	95.6	2,251,885	70.7
株式会社出版デジタル機構	59,066	1.8	453,861	14.2

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において当社が判断したものであります。

(1) 経営方針

「これまでのやり方や常識に全くとらわれず」「良いもの面白いもの望まれるものを徹底的に追求していく」というミッションの下、インターネットを軸に新しいエンターテインメントを生み出し、提供する、最強のエンターテインメント企業を目指しております。

(2) 中長期的な会社の経営戦略

当社オリジナルのビジネスモデルを活かして、より一層、出版事業の拡大を図ると共に、出版事業を通して蓄積した自社IP(小説・漫画・キャラクターなど)を活用して、平成27年5月より開始しております、自社開発によるゲーム事業への展開に加え、キャラクター事業や映像事業などの分野にも積極的に展開することを目指しております。

(3) 経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当社は、より高い成長性を確保する観点から「売上高」の伸び率において、市場全体の伸び率を上回ることを重視しております。加えて、企業価値の拡大を図るという観点にも立ち、「営業利益」及び「当期純利益」も重要な経営指標としております。

(4) 経営環境

当社が属する出版業界におきましては、厳しい状況が続いております。出版科学研究所によると、平成28年の出版物の推定販売金額は、前年比3.4%減となる1兆4,709億円となりました。その内訳は、紙の「書籍」が同0.7%減となる7,370億円、「雑誌」は同5.9%減の7,339億円となっており、「雑誌」が特に厳しく、「雑誌」は「書籍」の売り上げを41年ぶりに下回る結果となりました。一方、電子出版物については、平成28年の電子出版市場は1,909億円となり、前年比27.1%増となる大幅な成長を遂げております。

(5) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当社は、将来の更なる飛躍に向け、縮小している出版事業のみに留まらず、出版事業により蓄積された自社IPを活用して、平成27年5月より、自社開発によるゲーム事業を展開してまいりました。その結果、当事業年度におけるゲーム事業セグメントの売上高は385,383千円(前期比760.6%増)と大きく伸ばいたしました。利益確保に苦戦し、セグメント損失は208,163千円(前事業年度は46,170千円のセグメント損失)となりました。

主力である出版事業の増強とともに、出版事業に次ぐ収益の柱の育成に向けて、当社が認識している課題は次のとおりです。

取扱書籍のジャンル拡大

現在はライトノベルが売上高の約45%を占めておりますが、更なる業績拡大及びポートフォリオ最適化の観点から、今後は特定のジャンルに依存しないよう取扱書籍のジャンル拡大を図っていきたく考えております。

その中でも、特に漫画は、市場として非常に有望であり、かつ、電子書籍との親和性も高いことから、当社といたしましては最も注力したいジャンルとなります。当社では、漫画事業部署の人員増強により、当社刊行小説のコミカライズを加速させております。加えて、インターネット上で人気のあるオリジナルコンテンツの収集・出版も手掛けるべく、漫画家やユーザーの方にとって魅力あるサイト作りにも努めております。

知名度の向上と作家・ユーザー数の拡大

当社のビジネスモデルは、インターネット上にて良質なコンテンツが数多く収集でき、かつ、多くのユーザーにより多角的に評価されることで出版時の成功率が事前に高められることを前提に成り立っておりますので、継続的な新規コンテンツ、及びユーザーの確保が必要不可欠となっております。

そのためには、当社並びに当社サービスの知名度向上、及び作家・ユーザーの方の満足度向上が重要であると認識しておりますので、当社といたしましては、出版物に対する広告宣伝活動等を積極的に実施することに加え、作家・ユーザーの方からの当社Webサイトに対するリクエストにも適宜対応することで、その実現を目指しております。

収益力のあるゲーム事業のモデル確立

当社がこれまで提供してきたゲームは、スマホアプリ『リ・モンスター(Re:Monster)』や『THE NEW GATE』、PCブラウザゲーム『ワンモア・フリーライフ・オンライン』を筆頭に、事前登録者数や初動売上高については、当社が想定する以上の成果をあげることができました。その結果、当社IPの人気や集客力について、自

信を深める場面もありました。しかしながら、ゲーム配信後は、ゲーム事業に関する経験・ノウハウ不足から多くの問題が発生し、売上高並びに利益を維持し続けることが厳しい結果となってしまいました。

当社では、こうした状況を踏まえ、これまでにリリースしたゲームに対して詳細なデータ分析を行うことにより、効果的な施策を講ずることで各ゲームタイトルの売り伸ばしを狙うとともに、ゲーム事業の展開方法については精査・検討していく予定です。その精査・検討が完了するまでは新規タイトルのリリースは一旦、凍結する方針です。

優秀な人材の確保・育成

当社の編集担当者は書籍ごとに配置され、その担当者の受け持つ領域は、企画、編集、販促ツール制作、広告出稿等、書籍の制作から売上に結びつくまでに必要な全ての業務となります。そのため、担当者ごとの成果がわかりやすく、モチベーションが維持しやすい仕組みとなっておりますが、同時に幅広い知識とスキルが求められます。

その一方で、昨今の読者ニーズは非常に移り変りが激しく、出版するタイミングが極めて重要となってきております。更に、今後は取扱ジャンルの拡大を目指しているため、編集担当者を増強し、ヒットが見込まれる作品はタイミングを逃すことなく確実に刊行していくことが必要となります。

加えて、当社のビジネスモデル上、取扱ジャンルを拡大するためには当社Webサイトのサービスを拡大し、当社Webサイトから調達可能なコンテンツの種類が拡大されていることが前提となりますので、Webサイトサービスの速やかな対応を行うためにも、エンジニア人員の増強も必要となってきます。

当社といたしましては、即戦力となる中途人材の確保を促進することに加え、積極的な新卒採用活動を行うことにより、将来の飛躍的な成長を担う人材を確保することに努めております。また同時に、社内教育の充実、及び当社並びに当社サービスの知名度を向上させるための施策を継続的に実施することにより、志望者を引き付ける企業作りも行っております。

新たな販路の確保・拡大

現在、当社を取り巻く出版業界は厳しさを増し、とりわけ書店の数の減少が顕著であります。そうした中、当社の書籍コンテンツの販売チャネルを確保・拡大していくこと、さらにそうしたチャネルの収益力の高さを追い求めることが必要となっております。当社では当事業年度にはじめたアプリでの課金サービス「レンタル」をはじめ、当社アプリ及び当社Webサイトで当社書籍コンテンツを販売していく仕組みを強化し、投稿サイトという源泉から販売サイトという出口までの垂直の幹を太くしていくことを目指しております。

自社IPを活かした事業拡大

当社主力である書籍の市場規模は年々縮小しているため、当社といたしましては、出版事業のみに留まらず、出版事業により蓄積された自社IPを活用した事業の多角展開を目指しております。具体的には、平成27年5月に開始いたしましたゲーム事業の他に、映像等の出版事業以外のメディア展開、グッズ販売、スマートフォン向けの新たなアプリサービス等への展開を目指しております。

内部管理体制の強化

当社は、市場動向、競合企業、顧客ニーズ等の変化に対して速やかに対応し、持続的に成長を維持していくためには、内部管理体制の強化を通じた業務の標準化と効率化が重要であると考えております。そのため、当社といたしましては、内部統制の実効性を高めるための環境を整備し、コーポレート・ガバナンスを充実していくことにより、内部管理体制の強化に努めてまいります。これにより、組織的な統制・管理活動を通じてリスク管理の徹底とともに、業務の標準化と効率化を目指しております。

4【事業等のリスク】

以下において、当社の事業展開上のリスク要因となる可能性がある主な事項を記載しております。また、必ずしも事業上のリスクに該当しない事項についても、投資家の投資判断上、重要であると考えられる事項については、投資家に対する情報開示の観点から積極的に開示しております。当社は、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避、発生した場合の対応に努める方針です。

なお、文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において当社が判断したものであり、将来において発生の可能性がある全てのリスクを網羅するものではありません。

1. 事業環境に関するリスク

(1) 市場環境について

他社との競合について

インターネット上の小説や漫画等のコンテンツを書籍化するビジネスモデルにより、各社から大型のヒット作が相次ぎ出版され、一部のメディアでもそのビジネスモデルが取り上げられていることから、今後はより一層、当社と類似したビジネスモデルにて多くの新規参入等があると考えられます。

当社といたしましては、当社ならびに当社サービスの知名度向上、及び作家・ユーザーの満足度向上のための施策を継続的に実施することで、競合他社に対する優位性を確保することに努めてまいります。見込みどおりの効果が得られない場合には、当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

原材料市況について

出版物の印刷・製本業務は複数の取引先に分散して委託することで安定的な供給量とコストのコントロールを行っております。しかし、原材料となる紙のコストが急激な原油高等により高騰した場合、印刷・製本の委託費は増加すると考えられます。その場合には、当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

出版市場について

当社は、デジタルネットワークの発展に伴う情報メディアの多様化等による書籍の市場規模の縮小、顧客ニーズの細分化に対応するため、魅力ある書籍の拡充・強化を進めております。しかし、顧客ニーズに合致する書籍の拡充・強化が想定どおりに進まない場合には、当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

(2) 業界慣行及び法的規制について

再販売価格維持制度について

当社が販売している書籍等の著作物は、「私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律」（以下、「独占禁止法」という。）第23条の規定により、再販売価格維持契約制度（以下、「再販制度」という。）が認められております。

再販制度とは、一般的にはメーカーが自社の製品を販売する際に、「卸売業者がその商品を小売業者に販売する価格」、「小売業者が消費者に販売する価格」を指定し、その価格（以下、「再販売価格」という。）を卸売業者、小売業者にそれぞれ遵守させる制度であります。独占禁止法は、再販制度を不公正な取引方法の1つであるとして原則禁止しておりますが、著作物については再販制度が認められております。

公正取引委員会は平成13年3月23日付「著作物再販制度の取扱いについて」において、「競争政策の観点からは同制度を廃止し、著作物の流通において競争が促進されるべき」としながらも、「同制度の廃止について国民的合意が形成されるに至っていない」と指摘しており、当面、当該再販制度が維持されることとなっております。しかし、当該制度が廃止された場合、販売価格の値引きなどの価格競争に陥る可能性があるため、業界全体への影響も含め、当社の事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

委託販売制度について

法的規制等には該当いたしません。再販制度と並んで出版業界における特殊な慣行として委託販売制度があります。委託販売制度とは、当社が取次及び書店に配本した出版物について、配本後も返品を受け入れることを条件とする販売制度であります。

当社ではそのような返品による損失に備えるため、当期及び過去の売上高を基礎として、過去の返品実績を勘案した所要額を返品調整引当金に計上しておりますが、今後の返品実績の動向によっては、当社の事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

著作権、商標権、知的財産権等について

当社は、著作権、商標権、知的財産権等の法令等の下、事業活動を行っており、現段階において事業及び業績に重大な影響を及ぼす訴訟を提起されている事実はありません。しかし、当社と作家との間において著作権に関するトラブルが生じた場合、又は当社と他社間において著作権又は商標権に関するトラブルが発生した場合においては、訴訟等が発生する可能性があります。当社では、知的財産権に関する専門の弁護士と顧問契約を締結し、常にトラブルが無いよう努めておりますが、万一訴訟等が発生した場合には、当社の信頼を大きく毀損することとなり、当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

また、著作権、商標権、知的財産権等の法令等に重大な変更や当社事業に係る重大な法令等の新設がある場合には、当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

個人情報等について

当社では、多数の作家及びユーザーの個人情報をお預かりしております。個人情報保護につきましては全社的な対策を継続的に実施しておりますが、万一個人情報の漏洩等が発生した場合には、当社の信頼を大きく毀損することとなり、当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

2. 事業に関するリスク

(1) 取引依存の高い主要な取引先について

当社は、将来的には出版事業を通して蓄積した自社IPを活かした多角展開を見据えておりますので、限られた経営資源は編集等に注力すべきだと考えております。そのため、取次（出版社と書店の間をつなぐ流通業者）との取引業務（書籍の販売・流通業務）は全て中取次（出版社と取次の間をつなぐ流通業者）である株式会社星雲社を介して行っております。そのため、販売金額の71%（当事業年度（自平成28年4月1日至平成29年3月31日）実績）が同社に対するものとなっております。また、同社との契約条件により、新刊書籍に関しては、出荷から6ヶ月後に取次からの売上回収額が確定し、その翌月に同社が取次から回収、翌々月に当社へ入金するため、同社に対する当社の売上債権の回収期間は約半年となっております。

同社とは、引き続き現状の関係を維持していくことを確認しておりますが、将来において何らかの要因により、同社の事業戦略に変化が生じ取引契約の条件変更あるいは契約解消が起こった場合には、当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

しかし、同社の業績悪化等により貸倒リスクが顕在化した場合においては、同社が保有する当社書籍の売上債権に対しては債権譲渡担保契約を締結しているため、担保権を行使し取次から直接売上債権を回収することが可能となっております。一方で、取次の貸倒リスクが顕在化した場合においては、当社書籍の売上債権の回収に関して当社の事業及び業績に影響を受ける可能性があることから、当社は取次に対しての与信管理を徹底しております。

また、何らかの理由により取引契約が解消された場合、一定の期間や費用を要するものの、取次との直接取引及び株式会社星雲社に委託していた業務を内製化するために必要な組織・業務の整備を行うことで、対応は可能であると考えております。

(2) 新規事業への取組について

当社は、出版事業のみに留まらず、出版事業により蓄積された自社IPを活用して、平成27年5月より開始しておりますゲーム事業を筆頭に、映像等の出版事業以外のメディア展開、グッズ販売、スマートフォン向けアプリサービス（情報提供サービス等）の開始等、多角的に事業展開することを目指す方針であります。

これらの新規事業への取組に際して、新たな人材の確保、システム投資及び広告宣伝等のため追加的な支出が発生する場合、また当社がこれまで想定していない新たなリスクが発生する場合、あるいは事業展開が想定どおりに進捗しない場合には、当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

(3) 書籍の刊行時期について

書籍の刊行に関しては綿密な刊行計画を設定しておりますが、作家の執筆過程、及び編集者の編集過程等における予測不能の事態の影響から、当初の刊行計画から変更が生じることがあります。その結果、当社書籍の販売時期が延期等となった場合には、当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

(4) サイトの健全性の維持について

書籍化の源泉となるコンテンツが投稿される当社Webサイトは、不特定多数のユーザーがコンテンツを投稿することができ、また独自にコミュニケーション等を図っているため、こうした場においては、公序良俗に反する行為や、他人を不快にさせる行為等が生じる危険性が存在しております。そのため、当社は、Webサイト内における禁止事項を明記すると共に、当社においても不適切なコンテンツや書き込み等がないかの確認を行っております。

しかし、急速な利用者の増加等により、Webサイト内における全ての不適切な行為を取り締まることができない場合には、Webサイトの安全性及び健全性が確保できず、当社のブランドや信頼が毀損する可能性があります。その場合には、当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

(5) システムの安定的な稼働について

当社Webサイト（当社ゲームサイト含む）、及びアプリはウェブ上で運営されており、快適な状態でユーザーにサービスを提供するためにはシステムを安定的に稼働させ、問題が発生した場合には適時に解決する必要があると認識しております。そのため、新システムまたは機能導入時における十分な検証、及びシステム運用後においてはシステムを安定的に稼働させるための人員確保等に努めております。

しかし、当社が提供する各サービスへの急激なアクセス数の増加や災害等に起因したサーバーの停止に伴うシステムダウンが生じた場合、またはコンピュータ・ウイルスやクラッカーの侵入等によりシステム障害が生じた場合には、当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

3. 事業体制に関するリスク

(1) 人材採用と育成について

当社の事業運営に当たっては、人材の確保・育成が重要課題であると認識しております。そのため、当社は採用活動に注力し、人材の確保に努めるとともに、社内教育・研修制度の充実を図ることで、実務スキルに加えて、当社の経営理念や行動規範を理解した責任のある社員の育成を行っていく方針であります。

しかし、人材を適時確保できない場合や人材が大量に社外へ流出してしまった場合、あるいは人材の育成が当社の計画どおりに進捗しない場合には、当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

(2) 代表取締役社長への依存及び当社の事業推進体制について

当社の代表取締役社長である梶本雄介は、当社の創業者であり、設立時より最高経営責任者であります。同氏は、企業経営に関する豊富な経験と知識を有しており、現在においても経営方針や事業戦略等の立案及び決定を始め、取引先やその他各分野に渡る人脈等、当社の事業推進の中心的役割を担っており、当社における同氏への依存度は高いものとなっております。

そのため当社では、同氏に過度に依存しないよう、経営幹部、ならびに業務推進役の拡充、育成、及び権限委譲による分業体制の構築等を進めておりますが、現時点においては、何らかの理由により同氏が当社の経営者として業務遂行が継続出来なくなった場合には、当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

(3) 小規模組織における管理体制について

当社は、小規模な組織であり、現在の内部管理体制もこの規模に応じたものとなっております。当社では今後、事業の拡大に応じた組織整備や内部管理体制の拡充を図る予定です。しかし、事業の拡大に応じた組織整備や内部管理体制の拡充が順調に進まなかった場合には、当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

4. その他

(1) 配当政策について

当社では、当面は株主への長期的な利益還元を実現するために、環境変化に対応した事業展開を行うとともに、内部留保資金の充実を図る方針です。将来は、株主への利益還元と財務体質ならびに内部留保の充実のバランスを考慮しながら、配当を検討する所存ですが、現時点では配当実施の可能性及びその実施時期については未定であります。

5【経営上の重要な契約等】

当社は、取次（出版社と書店の間をつなぐ流通業者）との取引業務（書籍の販売・流通業務）は全て中取次（出版社と取次の間をつなぐ流通業者）である株式会社星雲社を介して行っております。また、同社に対する債権を保全する目的で債権譲渡に関する登記を行っております。

また、スマートフォン向け小説投稿・閲覧アプリやゲームアプリなどのリリースに伴い、スマートフォン・タブレット端末向けアプリプラットフォーム運営事業者との契約を締結しております。

相手会社の名称	契約の名称	契約期間	契約内容
株式会社星雲社	出版物販売流通業務委託契約	平成14年7月29日から2年間 (以後1年ごとの自動更新)	書籍の販売・流通業務の委託
株式会社星雲社	債権譲渡担保契約	平成25年9月11日から 平成30年12月31日まで	債権譲渡登記
Apple Inc.	iOS Developer Program License Agreement	1年間(1年毎の自動更新)	iOS搭載端末向けアプリケーションの配信及び販売に関する規約
Google Inc.	Google Playマーケットデベロッパー販売/配布契約	契約期間は定められておりません。	Android搭載端末向けアプリケーションの配信及び販売に関する規約

6【研究開発活動】

該当事項はありません。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、提出日現在において当社が判断したものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社の財務諸表は、我が国において一般的に公正妥当と認められている会計基準に基づいて作成されております。この財務諸表の作成には、経営者による会計方針の選択・適用、資産・負債及び収益・費用の報告金額及び開示に影響を与える見積りを必要としております。これらの見積りについては、過去の実績等を勘案し合理的に判断しておりますが、実際の結果は、見積りによる不確実性のため、これらの見積りと異なる場合があります。

当社の財務諸表の作成にあたって採用している重要な会計方針は「第5 経理の状況 1 財務諸表等(1)財務諸表」の「注記事項(重要な会計方針)」に記載しているとおりであります。

(2) 財政状態の分析

資産

当事業年度末の流動資産は、前事業年度末に比べ266,130千円減少し、4,670,093千円となりました。これは主に、売上高の減少に伴い売掛金が減少(前事業年度末比184,631千円減)したことによるものであります。

固定資産は、前事業年度末に比べ49,368千円減少し、289,710千円となりました。これは主に、スマホアプリ及びPCブラウザゲームの内、当事業年度の販売実績を鑑み当事業年度におけるソフトウェアの償却期間を見直したことに伴い、ソフトウェア及びソフトウェア仮勘定が減少したことによるものであります。

負債

当事業年度末の流動負債は、前事業年度末に比べ391,908千円減少し、993,107千円となりました。これは主に、売上高の減少に伴い未払金(前事業年度末比59,138千円減)、未払法人税等(同250,411千円減)、及び返品調整引当金(同55,150千円減)が減少したことによるものであります。

固定負債は、前事業年度末に比べ24,688千円減少し、53,229千円となりました。これは全て長期借入金が減少したことによるものであります。

純資産

当事業年度末の純資産は、前事業年度末に比べ101,098千円増加し、3,913,467千円となりました。これは全て当期純利益の計上に伴う利益剰余金の増加によるものであります。

(3) 経営成績の分析

売上高

当事業年度の売上高は、前事業年度に比べ160,215千円減少(前期比4.8%減)し、3,185,536千円となりました。これは、収益の柱として積極的に育成を進めております漫画事業が順調に拡大する一方で、第1四半期会計期間及び第2四半期会計期間において当初想定以上の『ゲート』関連書籍の返本が発生し、収益を圧迫したことに加え、ライトノベル市場への新規参入が活発化し、競争が激しくなってきたことなどにより、1タイトル当たりの発行部数が減少し、収益性が低下したことによるものです。

セグメントの概況については、「第2 事業の状況 1 業績等の概要 (1)業績」に記載しております。

売上原価、売上総利益、差引売上総利益

当事業年度の売上原価は、前事業年度に比べ194,852千円増加(前期比14.9%増)し、1,504,091千円となりました。これは主に、スマホゲームアプリ及びPCブラウザゲームに係るソフトウェア償却費の増加によるものです。この結果、売上総利益は前事業年度に比べ355,068千円減少(同17.4%減)し、1,681,445千円となりました。

また、返品調整引当金戻入額が、前事業年度に比べ58,555千円増加(同13.5%増)する一方で、返品調整引当金繰入額は、55,150千円減少(同11.2%減)したことにより、差引売上総利益は前事業年度に比べ241,363千円減少(同12.2%減)し、1,736,595千円となりました。

販売費及び一般管理費、営業利益

当事業年度の販売費及び一般管理費は、前事業年度に比べ489,560千円増加(前期比45.6%増)し、1,562,493千円となりました。これは主にゲーム事業に係る運営費、販売手数料及び広告宣伝費に加え、電子書籍事業に係る販売手数料が拡大したことによるものです。この結果、営業利益は前事業年度に比べ730,923千円減少(同80.8%減)し、174,101千円となりました。

経常利益

当事業年度の営業外収益は1,911千円、営業外費用は771千円発生しております。営業外費用は全て借入金に対する支払利息に係るものです。この結果、経常利益は前事業年度に比べ729,134千円減少（前期比80.6%減）し、175,242千円となりました。

当期純利益

当事業年度において特別利益及び特別損失の発生はございませんでした。この結果、税引前当期純利益は経常利益と同様175,242千円となり、法人税等合計74,143千円の計上により、当期純利益は前事業年度に比べ471,306千円減少（前期比82.3%減）し、101,098千円となりました。

(4) キャッシュ・フローの分析

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因については、「第2 事業の状況 1 業績等の概要(2) キャッシュ・フローの状況」をご参照ください。

(5) 経営戦略の現状と見通し

当社では、短・中期的な成長戦略として、取扱ジャンルの拡大を掲げております。その中でも、特に「漫画」に関しては、インターネット上にコンテンツが豊富に存在していること、書籍市場としてはライトノベル以上に規模が大きく魅力的であること、及び電子書籍との親和性が高いことから、今後は最も注力していきたいジャンルとなります。その他、「ビジネス」ジャンルについても、当社Webサイト上に開設したビジネスに特化したサイトを活用し、Web上から良質なコンテンツを掘り上げ、書籍化するモデルの構築を目指しております。

一方、出版業界全体の市場規模は年々縮小傾向にあるという厳しい状況でありますので、出版事業の強化と並行して、出版事業で蓄積したIPを活かしたゲーム事業、グッズ販売、映像化等に展開することで、次世代の新エンターテインメント企業となることを目指しております。特に、ゲーム事業については、当社保有IPはゲーム世界を小説に再現した作品に基づくものが多いことから、ゲームとの親和性も高いため、積極的な展開を目指しております。但し、その展開方針につきましては、現在、精査中でございます。

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因について

「第2 事業の状況 4 事業等のリスク」に記載のとおりであります。

(7) 経営者の問題認識と今後の方針について

「第2 事業の状況 3 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等」に記載のとおりであります。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当事業年度中における設備投資の総額は94,582千円となりました。主なものは、スマホアプリ及びPCブラウザゲーム等のソフトウェア制作費94,240千円であります。

なお、当事業年度において重要な設備の除却、売却等はありません。

2【主要な設備の状況】

当社における主要な設備は、次のとおりであります。

(平成29年3月31日現在)

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
			建物附属設備 (千円)	工具、器具 及び備品 (千円)	ソフトウェア (千円)	ソフトウェア 仮勘定 (千円)	合計 (千円)	
本社 (東京都渋谷区)	全社共通	事務所他	8,807	601	57,420	-	66,829	47(11)
本社 (東京都渋谷区)	ゲーム事業	ソフトウェア等	-	-	31,300	27,062	58,362	5(-)

(注) 1. 上記の金額には消費税等を含んでおりません。

2. 本社の建物は賃借物件であり、年間賃借料は105,623千円であります。

3. 従業員数の()は、平均臨時雇用者数を外書しております。

3【設備の新設、除却等の計画】

該当事項はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	16,000,000
計	16,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末 現在発行数(株) (平成29年3月31日)	提出日 現在発行数(株) (平成29年6月30日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	4,843,700	4,843,700	東京証券取引所 (マザーズ)	権利内容に何ら限定のない 当社における標準となる 株式であり、単元株式数は 100株であります。
計	4,843,700	4,843,700	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (千円)	資本金 残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年2月10日 (注)1	19,800	20,000	-	10,000	-	-
平成26年8月25日 (注)2	3,980,000	4,000,000	-	10,000	-	-
平成26年10月29日 (注)3	675,000	4,675,000	683,100	693,100	683,100	683,100
平成26年12月2日 (注)4	168,700	4,843,700	170,724	863,824	170,724	853,824

(注)1.平成26年1月16日開催の取締役会決議により、平成26年2月10日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行ったことによるものであります。

2.平成26年8月8日開催の取締役会決議により、平成26年8月25日付で普通株式1株につき200株の株式分割を行ったことによるものであります。

3.有償一般募集(ブックビルディング方式による募集)

発行価格 2,200円

引受価額 2,024円

資本組入額 1,012円

払込金総額 1,366,200千円

4.有償第三者割当(オーバーアロットメントによる売り出しに関連した第三者割当増資)

発行価格 2,024円

資本組入額 1,012円

割当先 大和証券株式会社

(6)【所有者別状況】

平成29年3月31日現在

区分	株式の状況（1単元の株式数100株）								単元未満 株式の状況 （株）
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 （人）	-	5	24	19	16	5	2,190	2,259	-
所有株式数 （単元）	-	2,059	1,436	16,133	826	12	27,959	48,425	1,200
所有株式数 の割合（％）	-	4.25	2.97	33.32	1.71	0.02	57.74	100	-

(7) 【大株主の状況】

平成29年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社オフィス梶本	東京都渋谷区恵比寿三丁目40番8号	1,600,000	33.03
梶本 雄介	東京都渋谷区	1,400,000	28.90
梶本 幸世	東京都渋谷区	165,400	3.41
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	121,500	2.50
梶本 翔太朗	東京都渋谷区	120,000	2.47
梶本 遼次朗	東京都渋谷区	120,000	2.47
加藤 綾子	東京都大田区	60,000	1.23
資産管理サービス信託銀行株式 会社(証券投資信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番12号	54,500	1.12
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1丁目6番1号	52,200	1.07
ゴールドマン・サックスイン ターナショナル (常任代理人 ゴールドマン・ サックス証券会社東京支店)	133 FLEET STREET LONDON EC4A 2BB U.K. (東京都港区六本木6丁目10番1号六本木ヒ ルズ森タワー)	43,800	0.90
計	-	3,737,400	77.16

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成29年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,842,500	48,425	権利内容に何ら限定のない当社 における標準となる株式であ り、単元株式数は100株であ ります。
単元未満株式	普通株式 1,200	-	-
発行済株式総数	4,843,700	-	-
総株主の議決権	-	48,425	-

【自己株式等】

該当事項はありません。

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

該当事項はありません。

3【配当政策】

当社は、当期純利益を計上しているものの、経営基盤の長期安定に向けた財務体質の強化、及び事業の継続的な拡大発展を目指すため、内部留保の充実が重要であると考え、会社設立以来、当事業年度を含めて配当は実施していません。

しかし、株主利益の最大化は重要な経営目標の一つとして認識しておりますので、将来的には、財務状態・業績推移、及び事業・投資計画等を総合的に勘案し、内部留保とのバランスをとりながら、剰余金の配当を実施することを基本方針としております。

内部留保資金につきましては、経営基盤の長期安定に向けた財務体質の強化、及び事業の継続的な拡大発展を充実させるための資金として、有効に活用していく所存でございます。

将来的に剰余金の配当を行う場合は、年1回を基本方針としており、その配当の決定機関は株主総会であります。なお、中間配当を行う場合には取締役会の決議によって行うことができる旨を定款に定めております。

4【株価の推移】

(1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第13期	第14期	第15期	第16期	第17期
決算年月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月
最高(円)	-	-	4,320	4,000	3,665
最低(円)	-	-	1,564	1,843	941

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所マザーズにおけるものであります。

なお、平成26年10月30日付をもって同取引所に株式を上場いたしましたので、それ以前の株価については該当事項はありません。

(2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成28年10月	平成28年11月	平成28年12月	平成29年1月	平成29年2月	平成29年3月
最高(円)	1,470	1,349	1,110	1,364	1,188	1,477
最低(円)	1,307	941	1,005	1,060	1,090	1,161

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所マザーズにおけるものであります。

5【役員の状況】

男性6名 女性 1名 (役員のうち女性の比率14.3%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(株)
代表取締役社長	-	梶本 雄介	昭和44年12月17日生	平成5年4月 (株)博報堂入社 平成12年8月 当社設立 代表取締役社長(現任)	(注)1	1,400,000
取締役	編集本部 本部長	加藤 綾子	昭和53年7月23日生	平成13年4月 特殊法人労働福祉事業団(現独立行政法人労働者健康安全機構)入社 平成20年7月 (株)ピクトプレス 入社 平成20年11月 当社入社 平成25年3月 当社 取締役(現任) 平成27年7月 当社 編集本部本部長(現任)	(注)1	60,000
取締役	管理本部 本部長	大久保 明道	昭和47年4月3日生	平成8年4月 トヨタファイナンス(株)入社 平成22年3月 SBIモーゲージ(株)(現アルヒ(株)) 財務経理部長 平成24年12月 当社入社 平成25年12月 当社 取締役(現任) 平成27年7月 当社 管理本部本部長(現任)	(注)1	40,000
取締役 (注)3	-	富永 博之	昭和22年3月17日生	昭和46年4月 佐世保重工業(株)入社 平成7年4月 弁護士登録 東京弁護士会知的財産法部会所属 平成12年4月 東京弁護士会民事介入暴力対策特別委員会委員(現任) 平成15年2月 弁護士登録 平成26年6月 当社 取締役(現任)	(注)1	-
常勤監査役 (注)4	-	落藤 隆夫	昭和28年10月27日生	昭和52年4月 (株)電通入社 平成15年7月 (株)電通EYE代表取締役 平成18年3月 (株)電通ワンダーマン代表取締役 平成24年4月 (株)電通グローバルビジネス局局長 平成25年4月 当社 監査役(現任)	(注)2	-
監査役 (注)4	-	池田 信彦	昭和20年4月8日生	昭和43年4月 三井信託銀行(株)入社 平成11年6月 三井信託ビジネス(株)取締役 平成18年3月 SBIモーゲージ(株)内部監査室長 平成20年5月 SBIモーゲージ(株)監査役 平成25年3月 当社 監査役(現任)	(注)2	-
監査役 (注)4	-	天野 良明	昭和23年11月7日生	昭和47年4月 三井信託銀行(株)入社 平成13年1月 三井鉱山(株)転籍 平成17年6月 三井鉱山マテリアル(株)代表取締役 平成18年6月 サンコーコンサルタント(株)常勤監査役 平成26年6月 当社 監査役(現任)	(注)2	-
計						1,500,000

- (注)1. 取締役の任期は、平成28年6月23日開催の定時株主総会の終結から、平成30年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
2. 監査役の任期は、平成26年6月27日開催の定時株主総会の終結から、平成30年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
3. 取締役 富永博之は、社外取締役であります。
4. 常勤監査役 落藤隆夫、監査役 池田信彦、及び監査役 天野良明は、社外監査役であります。

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

(コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方)

当社の企業価値を継続的に高めていくには、株主や投資家の皆様や当社サービスを利用するユーザーの方から高い信頼を得ることが必要と考えております。

当該認識のもと、当社では迅速な意思決定や適切な業務執行と共に、経営の健全性、透明性、及び客観性を確保するよう、コーポレート・ガバナンスの充実に努めております。

会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況等

イ．会社の機関の基本説明

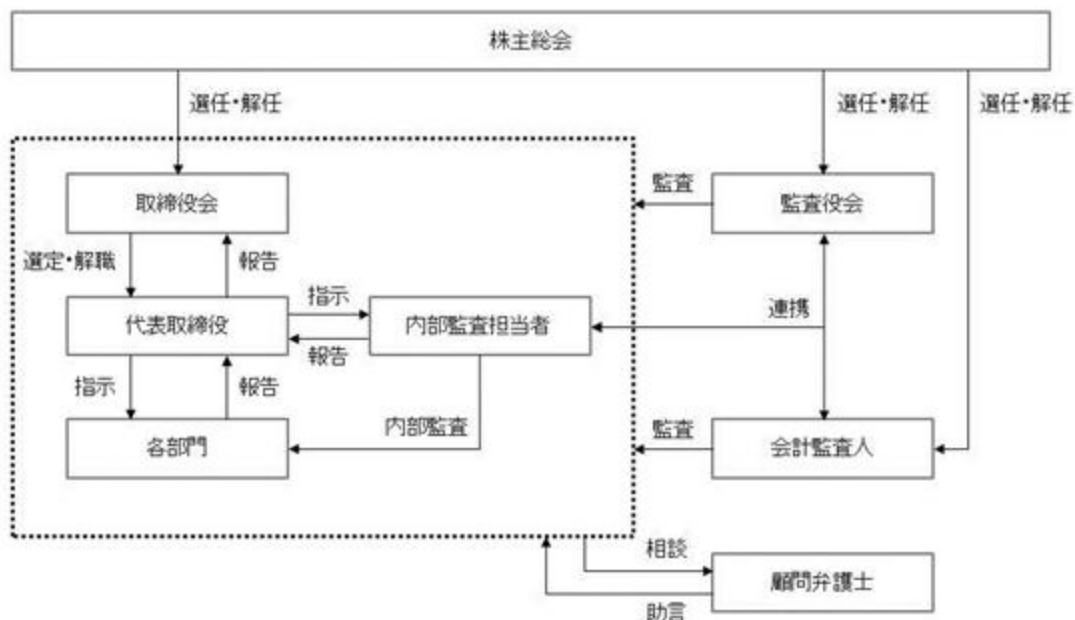
当社は、取締役会設置会社であり、かつ監査役会設置会社であります。

ロ．当社のコーポレート・ガバナンス体制と採用理由

経営戦略を迅速に実行していく必要がある一方で、社会的信用を得るために経営の健全性、透明性、及び客観性の観点から当該企業統治の体制を採用しております。

当社の経営組織、及びコーポレート・ガバナンス体制を図示すると以下のとおりであります。

[コーポレート・ガバナンス図表]



(a) 取締役会

取締役会は、本書提出日現在、社外取締役1名を含む取締役4名で構成されております。取締役会は、原則月1回の定時取締役会を開催するほか、必要に応じて臨時取締役会を開催することで、迅速な経営上の意思決定を行える体制としております。取締役会では、経営上の意思決定機関として、取締役会規程に基づき重要事項を決議し、取締役の業務執行状況を監督しております。

また、取締役会には、全ての監査役が出席し、取締役の業務執行の状況を監視できる体制となっております。

(b) 監査役、監査役会

当社は、監査役会制度を採用しております。監査役会は、本書提出日現在、監査役3名で構成され、全て社外監査役であり、うち1名は常勤監査役であります。監査役はガバナンスのあり方とその運営状況を監視し、取締役の職務の執行を含む日常的活動の監査を行っております。監査役は取締役会その他社内会議に出席し、取締役の職務執行について適宜意見を述べております。

監査役は、監査計画に基づき監査を実施し、原則として月1回定例で監査役会を開催するほか、必要に応じて臨時監査役会も開催しております。

また、内部監査担当者、及び会計監査人と随時会合を開催することにより、監査に必要な情報の共有化を図っております。

八．内部統制システムの整備状況

当社は企業経営の透明性及び客観性を確保するため、内部統制に関する基本方針、及び各種規程を制定し、内部統制システムを構築し、運用の徹底を図っております。また、内部統制システムが有効に機能していることを確認するため、内部監査担当者による内部監査を実施しております。

当社では会社法ならびに関連規則に基づき、以下のような業務の適正化を確保するための体制整備の基本方針として、内部統制システム整備の基本方針を定めております。

- (a) 取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
 - a. 当社では、管理部が中心となって、業務プロセスや規程の整備、評価・監視体制の強化により、取締役の職務執行の適正を確保する。また、違法行為に対する牽制機能として監査役に報告する体制を整備し、不祥事の未然防止を図るとともに、反社会的勢力排除に向けた体制整備を行う。
- (b) 取締役の職務の執行にかかわる情報の保存、及び管理に関する体制
 - a. 文書管理規程を定め、重要な会議体の議事録等、取締役の職務の執行に係る情報を含む重要文書（電磁的記録を含む）は、当該規程等の定めるところに従い、適切に保管、管理する。
 - b. 取締役及び監査役からの閲覧要請があった場合には、すみやかに閲覧に供することとする。
- (c) 当社の損失の危機の管理に関する規程その他の体制
 - a. 取締役は、当社の事業に伴う様々なリスクを把握し、総合的にリスク管理を行うことの重要性を認識した上で、諸リスクの把握、評価、及び管理に努める。
- (d) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
 - a. 毎月1回、定例の取締役会を開催するほか、必要に応じて随時に開催し、重要事項の審議及び決定を行う。
 - b. 取締役は、緊密に意見交換を行い、情報共有を図ることにより、効率的、かつ迅速に業務を執行する。
 - c. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するために、組織規程、業務分掌規程、及び稟議規程を制定する。
- (e) 使用人の職務の執行が法令、及び定款に適合することを確保するための体制
 - a. 職務権限を定めて責任と権限を明確化し、各部門における執行の体制を確立する。
 - b. 必要となる各種の決裁制度、社内規程及びマニュアル等を備え、これを周知し、運用する。
- (f) 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項
 - a. 監査役が、その職務を補助すべき使用人(以下、「補助使用人」という)を置くことを求めた場合には、監査役と管理部門担当取締役が協議の上、補助使用人を置く。
- (g) 監査役を補助すべき使用人の取締役からの独立性に関する事項及び同使用人に対する監査役の指示の実効性の確保に関する体制
 - a. 補助使用人の職務については、監査役の指揮命令下で遂行することとし、取締役からの独立性を確保し、補助使用人の人事考課、異動等については監査役の同意を得た上で決定する。
- (h) 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制
 - a. 取締役及び使用人は、会社に重大な損失を与える事項が発生又は発生する恐れがあるとき、違法又は不正な行為を発見したとき、その他監査役が報告すべきものと定めた事項が生じたときは、監査役に報告する。
 - b. 取締役及び使用人は、監査役の求めに応じ、速やかに業務執行の状況等を報告する。

- (i) (h) の報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制
- a. 取締役及び使用人からの監査役への通報については、通報内容を秘密として保持するとともに、通報者に対する不利益な取扱いを禁止する。
- (j) 監査役の職務の執行について生ずる費用の処理に係る方針に関する事項
- a. 取締役は監査役による監査に協力し、監査に要する諸費用については、監査の実行を担保するべく予算を措置する。
- (k) その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制
- a. 監査役は、内部監査担当者との連携を図り、適切な意思疎通を行う。
- b. 監査役は、取締役会ほか重要な会議に出席して適宜意見を述べる等して、実効性の確保を行う。
- (l) 財務報告に係る内部統制システムの整備状況
- a. 金融商品取引法に基づく財務報告に係る内部統制報告制度に適切に対応するため、財務報告に係る内部統制システムの構築を行い、その仕組みが適切に機能することを継続的に評価し、不備があれば適宜是正し、適切な運用に努めることにより、財務報告の信頼性を確保する。
- (m) 反社会的勢力の排除に向けた基本方針、及び整備状況
- a. 市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力とは一切の関係を持たず、不当な要求には一切応じないことを基本方針とする。
- b. 反社会的勢力対応マニュアルを規定し、周知するとともに、管理部を担当部門として全社組織的な対応を行う。

二．内部監査及び監査役監査の状況

内部監査につきましては、当社は会社規模が比較的小さく、内部監査の担当人員に限りがあることから、監査、報告の独立性を確保した上で、担当、責任者を兼務させております。具体的には、代表取締役社長が管理部の人員1名を内部監査担当者として任命し、運用を行っております。

内部監査担当者は、業務の有効性、及び効率性等を担保することを目的として、代表取締役社長による承認を得た内部監査計画書に基づいて内部監査を実施し、監査結果を代表取締役社長に報告するとともに、監査対象となった各事業部門に対して業務改善等のための指摘を行い、後日、改善状況を確認しております。また、内部監査担当者は監査役、及び会計監査人と半年に1回以上会合を開催し、監査事項や監査指摘事項等の共有を行う方針であります。

当社の監査役会は、監査役3名で構成され、うち1名の常勤監査役を選任しております。各監査役は定められた業務分担に基づき監査を行い、原則として月1回開催されている監査役会において、情報共有を図っております。監査役監査は毎期策定される監査計画書に基づき、取締役会を含む重要な会議への出席、実地監査、意見聴取を行っております。

ホ．会計監査の状況

当社は、有限責任監査法人トーマツと監査契約を締結しております。同監査法人又は同監査法人の業務執行社員と当社との間に特別な利害関係はありません。なお、継続監査年数については7年以下であるため、記載を省略しております。

平成29年度3月期において業務を執行した公認会計士の氏名、及び会計監査業務に係る補助者の構成は以下のとおりであります。

- ・業務を執行した公認会計士の氏名
 - 業務執行社員 芝田 雅也
 - 業務執行社員 坂東 正裕
- ・監査業務における補助者の構成
 - 公認会計士 2名
 - その他 5名

へ．社外取締役及び社外監査役との関係

当社の社外取締役は1名であり、社外監査役は3名であります。

社外取締役の富永博之は、弁護士として培われた高度な人格と専門的な法律知識を有しており、当社の法務体制の強化に努めるとともに、同氏は長年に渡り東京弁護士会民事介入暴力対策特別委員会委員を務めており、当社の反社会的勢力排除の取組強化に努めております。

社外監査役の落藤隆夫は、出版事業と関わりが深いコミュニケーション分野に関する専門的な知見と幅広い経験を活かして、当社の監査体制の強化に努めております。

社外監査役の池田信彦は、金融機関における長年の経験があり、財務及び会計に関する相当程度の知見を活かして、当社の監査体制の強化に努めております。

社外監査役の天野良明は、金融機関における長年の経験があり、財務及び会計に関する相当程度の知見を活かして、当社の監査体制の強化に努めております。

なお、当社と社外取締役1名及び社外監査役3名との間に資本的関係、又は取引関係その他の利害関係等はありません。

当社は、社外取締役又は社外監査役を選任するための独立性に関する基準又は方針として明確に定めたものはありませんが、選任にあたっては、経歴や当社との関係及び東京証券取引所の独立役員に関する判断基準等を勘案した上で、コーポレート・ガバナンスの充実・向上に資するものを選任することとしております。

リスク管理体制の整備の状況

当社は、事業環境の変化に対応しながら持続的な成長を達成していくため、企業活動に伴う様々なリスクについては、各部署においてリスクの分析や予防対策の検討等を進め、それぞれの担当取締役が対応部署を通じ、必要に応じて規程、研修、マニュアルの制定・配付等を行う体制となっております。

また法務上の問題については、顧問弁護士と顧問契約を締結し、必要に応じて指導、及び助言等を受け、適切な対処を行える体制となっております。

役員報酬等

イ．役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額、及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)		対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	賞与	
取締役 (社外取締役除く)	45,883	45,883	-	3
社外役員	11,625	11,625	-	4

(注) 1．取締役の報酬限度額は、平成25年3月25日開催の臨時株主総会において、年額500百万円以内(ただし、使用人分給与は含まない。)と決議しております。

2．監査役の報酬限度額は、平成25年3月25日開催の臨時株主総会において、年額50百万円以内と決議しております。

ロ．役員の報酬等の決定に関する方針

株主総会において決議された報酬総額の限度内で、各取締役の担当業務、及びその内容、経済情勢等を考慮し、取締役会の決議により各役員の報酬額を決定しております。

また、監査役の報酬額につきましても、株主総会において決議された報酬総額の限度内で、監査役会の決議により各監査役の報酬額を決定しております。

責任限定契約の内容の概要

当社は、会社法第427条第1項の規定により、社外取締役及び各社外監査役との間で、損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく責任の限度額は、法令が定める最低責任限度額としております。なお、当該責任限定が認められるのは、当該社外取締役及び社外監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。

取締役の定数

当社の取締役は、5名以内とする旨を定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

株主総会決議事項を取締役会で決議することができるとした事項

イ．中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、取締役会の決議により毎年9月30日を基準日として、会社法第454条第5項に定める中間配当ができる旨を定款に定めております。

ロ．取締役等の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役（取締役であった者を含む）及び監査役（監査役であった者を含む）の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議において免除することができる旨を定款に定めております。これは、取締役及び監査役が職務を遂行するにあたり、その能力を十分に発揮して、期待される役割を果たしうる環境を整備することを目的とするものであります。

株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とし、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2をもってこれを行う旨を定款に定めております。

株式の保有状況

イ．投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数、及び貸借対照表計上額の合計額
該当事項はありません。

ロ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額、及び保有目的
該当事項はありません。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に 基づく報酬(千円)	非監査業務に 基づく報酬(千円)	監査証明業務に 基づく報酬(千円)	非監査業務に 基づく報酬(千円)
12,000	-	13,000	-

【その他重要な報酬の内容】

(前事業年度)

該当事項はありません。

(当事業年度)

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前事業年度)

該当事項はありません。

(当事業年度)

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する報酬の金額は、監査証明業務に係る人員数、監査日数等を勘案し、決定する方針です。

第5【経理の状況】

1．財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

3．連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、連結財務諸表を作成しておりません。

4．財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、的確に対応するために、社内体制の構築、会計専門誌の購読、セミナーへの参加等を行っております。

1【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,572,464	2,478,034
売掛金	2,039,382	1,854,750
製品	179,771	155,663
仕掛品	74,724	68,237
前払費用	12,448	13,215
繰延税金資産	45,867	54,250
未収還付法人税等	-	36,125
その他	11,564	9,815
流動資産合計	4,936,223	4,670,093
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備(純額)	10,470	8,807
工具、器具及び備品(純額)	590	601
有形固定資産合計	11,061	9,409
無形固定資産		
ソフトウェア	123,037	88,720
ソフトウェア仮勘定	98,997	27,062
無形固定資産合計	222,034	115,783
投資その他の資産		
出資金	42,467	20,742
保険積立金	8,000	8,000
敷金	50,878	67,924
繰延税金資産	4,635	67,851
投資その他の資産合計	105,981	164,517
固定資産合計	339,078	289,710
資産合計	5,275,301	4,959,803
負債の部		
流動負債		
買掛金	84,627	77,960
1年内返済予定の長期借入金	51,272	42,732
未払金	440,513	381,375
未払消費税等	12,447	-
未払費用	24,749	17,212
未払法人税等	250,411	-
預り金	8,822	7,326
賞与引当金	16,986	23,629
返品調整引当金	491,730	436,579
前受金	3,455	6,292
流動負債合計	1,385,016	993,107
固定負債		
長期借入金	77,917	53,229
固定負債合計	77,917	53,229
負債合計	1,462,933	1,046,336

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	863,824	863,824
資本剰余金		
資本準備金	853,824	853,824
資本剰余金合計	853,824	853,824
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	2,094,720	2,195,818
利益剰余金合計	2,094,720	2,195,818
株主資本合計	3,812,368	3,913,467
純資産合計	3,812,368	3,913,467
負債純資産合計	5,275,301	4,959,803

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
売上高	3,345,752	3,185,536
売上原価		
製品期首たな卸高	121,406	179,771
当期製品製造原価	1,367,604	1,479,984
合計	1,489,010	1,659,755
製品期末たな卸高	179,771	155,663
製品売上原価	¹ 1,309,239	¹ 1,504,091
売上総利益	2,036,513	1,681,445
返品調整引当金戻入額	433,175	491,730
返品調整引当金繰入額	491,730	436,579
差引売上総利益	1,977,958	1,736,595
販売費及び一般管理費	² 1,072,933	² 1,562,493
営業利益	905,024	174,101
営業外収益		
受取利息	582	47
中小企業倒産防止共済前納減額金	53	-
その他	4	1,864
営業外収益合計	639	1,911
営業外費用		
支払利息	1,247	771
その他	40	-
営業外費用合計	1,287	771
経常利益	904,376	175,242
特別利益		
保険解約返戻金	30,593	-
特別利益合計	30,593	-
税引前当期純利益	934,969	175,242
法人税、住民税及び事業税	384,667	145,742
法人税等調整額	22,102	71,599
法人税等合計	362,565	74,143
当期純利益	572,404	101,098

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)		当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
編集製作費		173,289	12.3	191,627	13.0
外注加工費	1	726,126	51.8	699,979	47.5
経費	2	503,443	35.9	581,889	39.5
当期総製造費用		1,402,859	100.0	1,473,496	100.0
期首仕掛品棚卸高		39,469		74,724	
合計		1,442,329		1,548,221	
期末仕掛品棚卸高		74,724		68,237	
当期製品製造原価		1,367,604		1,479,984	

原価計算の方法

原価計算の方法は、実際原価による個別原価計算によっております。

1 外注加工費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
印刷費(千円)	553,771	429,229
イラスト・デザイン費等(千円)	83,343	105,655
漫画原稿料(千円)	77,565	87,037

2 経費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
国内書籍に対する印税(千円)	416,378	322,625
海外書籍に対する印税(千円)	2,667	304
ゲーム事業に対する印税(千円)	503	4,377
地代家賃(千円)	54,723	60,514
ソフトウェア償却費(千円)	6,450	148,703

(注) 1. 国内書籍の作家に対する印税支払額は実売部数を基礎として算出しております。

また、海外書籍の原作者に対する印税支払額も実売部数を基礎としておりますが、予め想定される実売部数を基礎とした印税の一部前払を行っております。なお、翻訳作家に対する印税は、発行部数を基礎として算出しております。

2. ソフトウェア償却費は、スマホゲームアプリ及びPCブラウザゲームに係るものとなります。

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本									純資産 合計
	資本金	資本剰余金			利益 準備金	利益剰余金			株主資本 合計	
		資本 準備金	その他 資本 剰余金	資本 剰余金 合計		別途 積立金	繰越利益 剰余金	利益 剰余金 合計		
当期首残高	863,824	853,824	-	853,824	-	-	1,522,315	1,522,315	3,239,964	3,239,964
当期変動額										
当期純利益							572,404	572,404	572,404	572,404
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	572,404	572,404	572,404	572,404
当期末残高	863,824	853,824	-	853,824	-	-	2,094,720	2,094,720	3,812,368	3,812,368

当事業年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本									純資産 合計
	資本金	資本剰余金			利益 準備金	利益剰余金			株主資本 合計	
		資本 準備金	その他 資本 剰余金	資本 剰余金 合計		別途 積立金	繰越利益 剰余金	利益 剰余金 合計		
当期首残高	863,824	853,824	-	853,824	-	-	2,094,720	2,094,720	3,812,368	3,812,368
当期変動額										
当期純利益							101,098	101,098	101,098	101,098
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	101,098	101,098	101,098	101,098
当期末残高	863,824	853,824	-	853,824	-	-	2,195,818	2,195,818	3,913,467	3,913,467

【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益	934,969	175,242
減価償却費	16,784	176,943
賞与引当金の増減額(は減少)	4,412	6,642
返品調整引当金の増減額(は減少)	58,555	55,150
受取利息及び受取配当金	582	47
保険解約返戻金	30,593	-
支払利息	1,247	771
売上債権の増減額(は増加)	196,785	184,631
たな卸資産の増減額(は増加)	93,619	30,595
仕入債務の増減額(は減少)	26,841	6,667
未払金の増減額(は減少)	51,670	31,385
その他	40,442	22,891
小計	678,774	458,683
利息及び配当金の受取額	582	47
利息の支払額	1,247	771
保険解約による収入	30,593	-
法人税等の支払額	328,954	431,756
営業活動によるキャッシュ・フロー	379,747	26,202
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	329	342
無形固定資産の取得による支出	204,135	94,240
出資金の払込による支出	47,260	-
出資金の回収による収入	95	26,432
敷金及び保証金の差入による支出	-	19,254
投資活動によるキャッシュ・フロー	251,628	87,404
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	50,000	50,000
長期借入金の返済による支出	81,038	83,228
財務活動によるキャッシュ・フロー	31,038	33,228
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	97,080	94,429
現金及び現金同等物の期首残高	2,475,383	2,572,464
現金及び現金同等物の期末残高	2,572,464	2,478,034

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. たな卸資産の評価基準及び評価方法

個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法により算定）を採用しております。

2. 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産

定率法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物附属設備	8～15年
工具、器具及び備品	4～8年

無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、ソフトウェア（自社利用）については、社内における見込利用可能期間（1年～5年）による定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支払いに備えるため、賞与支給見込み額のうち当事業年度に負担すべき額を計上しております。

(2) 返品調整引当金

製品の返品による損失に備えるため、過去の返品実績を勘案した所要額を計上しております。

4. キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金からなっております。

5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を当事業年度に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、この変更による当事業年度の財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を当事業年度から適用しております。

(貸借対照表関係)

有形固定資産の減価償却累計額

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
建物附属設備	2,710千円	4,373千円
工具、器具及び備品	1,151	1,483
計	3,861	5,857

(損益計算書関係)

- 1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
17,638千円	31,220千円

- 2 販売費に属する費用の割合は前事業年度83%、当事業年度87%、一般管理費に属する費用の割合は前事業年度17%、当事業年度13%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
販売手数料	581,591千円	791,159千円
業務委託費	16,121	200,467
給料手当	86,073	108,046
役員報酬	66,500	57,508
販売促進費	57,319	62,803
広告宣伝費	57,059	58,035
賞与引当金繰入	8,997	12,361
減価償却費	5,235	22,878

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

1. 発行済株式に関する事項

	当事業年度期首 株式数 (株)	当事業年度 増加株式数 (株)	当事業年度 減少株式数 (株)	当事業年度末 株式数 (株)
普通株式	4,843,700	-	-	4,843,700

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1. 発行済株式に関する事項

	当事業年度期首 株式数 (株)	当事業年度 増加株式数 (株)	当事業年度 減少株式数 (株)	当事業年度末 株式数 (株)
普通株式	4,843,700	-	-	4,843,700

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
現金及び預金勘定	2,572,464千円	2,478,034千円
現金及び現金同等物	2,572,464	2,478,034

(リース取引関係)

(借主側)

1. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
1年内	48,135	98,196
1年超	-	61,613
合計	48,135	159,809

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については安全性の高い短期的な預金等に限定し、また、資金調達については銀行借入れによる方針であります。なお、デリバティブ取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。

敷金は、建物質貸借契約に係るものであり、差入先の信用リスクに晒されております。

営業債務である買掛金、1年内返済予定の長期借入金、未払金、未払消費税等、未払法人税等、預り金は、一年以内の支払期日であります。

長期借入金の使途は、主に運転資金であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

売掛金に係る顧客の信用リスクは、与信管理規程に沿ってリスクの低減を図っております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払を実行できなくなるリスク)の管理

手元流動性の維持等により流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

(5) 信用リスクの集中

当社は、書籍の販売・流通は全て株式会社星雲社を介して行っておりますので、当事業年度の末日における営業債権のうち、91%が同社に対するものであります。そのため、当社は、株式会社星雲社と、同社が保有する当社書籍の売上債権に対する債権の譲渡担保契約を締結し、債権の貸倒リスクに備えております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前事業年度（平成28年3月31日）

	貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	2,572,464	2,572,464	-
(2) 売掛金	2,039,382	2,039,382	-
(3) 敷金	50,878	46,938	3,939
資産計	4,662,725	4,658,785	3,939
(1) 買掛金	84,627	84,627	-
(2) 1年内返済予定の長期借入金	51,272	51,272	-
(3) 未払金	440,513	440,513	-
(4) 未払消費税等	12,447	12,447	-
(5) 未払法人税等	250,411	250,411	-
(6) 預り金	8,822	8,822	-
(7) 長期借入金	77,917	77,762	154
負債計	926,011	925,857	154

当事業年度（平成29年3月31日）

	貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	2,478,034	2,478,034	-
(2) 売掛金	1,854,750	1,854,750	-
(3) 敷金	67,924	66,270	1,654
資産計	4,400,709	4,399,054	1,654
(1) 買掛金	77,960	77,960	-
(2) 1年内返済予定の長期借入金	42,732	42,732	-
(3) 未払金	381,375	381,375	-
(4) 未払消費税等	-	-	-
(5) 未払法人税等	-	-	-
(6) 預り金	7,326	7,326	-
(7) 長期借入金	53,229	53,113	115
負債計	562,623	562,508	115

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法

資産

(1) 現金及び預金、ならびに(2) 売掛金

預金には、定期預金は含まれておらず、また売掛金として開示されるものは、全て短期で決済されております。そのため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

(3) 敷金

合理的に見積った返済期日までの将来キャッシュ・フローをリスクフリーレートで割り引いた現在価値により算出する方針としております。

負債

(1) 買掛金、(2) 1年内返済予定の長期借入金、(3) 未払金、(4) 未払消費税等、(5) 未払法人税等、ならびに(6) 預り金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(7) 長期借入金

長期借入金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、また、当社の信用状態は借入実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております。また、固定金利によるものは、一定の期間ごとに区分した当該長期借入金の元利金の合計額を同様の借入において想定される利率で割り引いて現在価値を算定してしております。

2. 金銭債権の決算日後の償還予定額

前事業年度（平成28年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	2,572,464	-	-	-
売掛金	2,039,382	-	-	-
敷金	-	50,878	-	-
合計	4,611,846	50,878	-	-

当事業年度（平成29年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	2,478,034	-	-	-
売掛金	1,854,750	-	-	-
敷金	-	67,924	-	-
合計	4,332,784	67,924	-	-

3. 長期借入金の決算日後の返済予定額
前事業年度（平成28年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
1年内返済予定の 長期借入金	51,272	-	-	-	-	-
長期借入金	-	42,732	33,065	2,120	-	-
合計	51,272	42,732	33,065	2,120	-	-

当事業年度（平成29年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
1年内返済予定の 長期借入金	42,732	-	-	-	-	-
長期借入金	-	34,421	18,808	-	-	-
合計	42,732	34,421	18,808	-	-	-

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
流動資産		
(繰延税金資産)		
返品調整引当金	19,496千円	42,859千円
未払事業税	13,701	-
賞与引当金	5,242	7,291
未払金	4,065	3,806
未払費用	2,970	1,504
未払事業所税	-	225
その他	392	183
繰延税金資産計	45,867	55,871
(繰延税金負債)		
未収事業税	-	1,620
繰延税金負債計	-	1,620
繰延税金資産(負債)の純額	45,867	54,250
固定資産(負債)		
(繰延税金資産)		
ソフトウェア	4,219	61,440
出資金	1,543	8,195
敷金	1,265	1,940
その他	55	664
繰延税金資産計	7,084	72,242
評価性引当額	-	1,940
繰延税金資産計	7,084	70,300
(繰延税金負債)		
保険積立金	2,449	2,449
繰延税金負債計	2,449	2,449
繰延税金資産(負債)の純額	4,635	67,851

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
法定実効税率	33.1%	30.9%
(調整)		
留保金課税	7.4	14.3
雇用促進税制	2.2	5.4
住民税均等割	0.2	1.3
評価性引当額の増減	-	1.1
その他	0.3	0.1
税効果会計適用後の法人税等の負担率	38.8	42.3

(資産除去債務関係)

前事業年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

当社は、本社事務所の不動産賃貸借契約に基づく退去時における原状回復義務を資産除去債務として認識しております。

なお、当事業年度末における資産除去債務は、負債計上に代えて、不動産賃貸借契約に関連する敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積り、そのうち当事業年度の負担に属する金額を費用に計上する方法によっております。

当事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

当社は、本社事務所の不動産賃貸借契約に基づく退去時における原状回復義務を資産除去債務として認識しております。

なお、当事業年度末における資産除去債務は、負債計上に代えて、不動産賃貸借契約に関連する敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積り、そのうち当事業年度の負担に属する金額を費用に計上する方法によっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、本社に製品・サービス別の事業部を置き、各事業部は取り扱う製品・サービスについて包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社は、事業部を基礎とした製品・サービス別のセグメントから構成されており、「出版事業」及び「ゲーム事業」の2つを報告セグメントとしております。

「出版事業」は、書籍及び電子書籍の制作・販売を行っております。「ゲーム事業」は、スマートフォン向けアプリ(ネイティブ)、及びPCブラウザゲームの開発・運用を行っております。

当事業年度より、報告セグメントを従来の単一セグメントから、「出版事業」及び「ゲーム事業」の2区分に変更しております。なお、当該セグメントの区分に基づき作成した前事業年度の「報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報」は、以下のとおりです。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、財務諸表を作成するために適用した会計処理と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報

前事業年度(自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	財務諸表 計上額 (注)2
	出版事業	ゲーム事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,300,970	44,782	3,345,752	-	3,345,752
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	3,300,970	44,782	3,345,752	-	3,345,752
セグメント利益又は損失()	1,280,211	46,170	1,234,041	329,016	905,024
セグメント資産	2,276,505	172,211	2,448,717	2,826,584	5,275,301
その他の項目					
減価償却費	4,554	6,450	11,004	5,779	16,784
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	-	161,376	161,376	72,553	233,929

(注)1. 調整額は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益又は損失の調整額 329,016千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- (2) セグメント資産の調整額2,826,584千円は、各報告セグメントに含まれない全社資産であり、主に余資運用資金(現金及び預金)及び管理部門に係る資産等であります。
- (3) 減価償却費の調整額5,779千円は、各報告セグメントに含まれない全社費用であり、その内容は報告セグメントに帰属しない管理部門に係る資産の減価償却費であります。
- (4) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額72,553千円は、各報告セグメントに帰属しない管理部門に係る資産の増加額であります。

2. セグメント利益又は損失は、財務諸表の営業利益と調整を行っております。

当事業年度（自平成28年4月1日 至平成29年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額 (注) 1	財務諸表 計上額 (注) 2
	出版事業	ゲーム事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,800,153	385,383	3,185,536	-	3,185,536
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	2,800,153	385,383	3,185,536	-	3,185,536
セグメント利益又は損失()	772,078	208,163	563,914	389,813	174,101
セグメント資産	2,039,747	97,266	2,137,013	2,822,789	4,959,803
その他の項目					
減価償却費	5,037	148,908	153,946	22,996	176,943
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	-	118,528	118,528	14,516	133,044

(注) 1. 調整額は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益又は損失の調整額 389,813千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- (2) セグメント資産の調整額2,822,789千円は、各報告セグメントに含まれない全社資産であり、主に余資運用資金（現金及び預金）及び管理部門に係る資産等であります。
- (3) 減価償却費の調整額22,996千円は、各報告セグメントに含まれない全社費用であり、その内容は報告セグメントに帰属しない管理部門に係る資産の減価償却費であります。
- (4) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額14,516千円は、各報告セグメントに帰属しない管理部門に係る資産の増加額であります。

2. セグメント利益又は損失は、財務諸表の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前事業年度（自平成27年4月1日 至平成28年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

顧客の氏名又は名称	売上高（千円）	関連するセグメント名
株式会社星雲社	3,198,805	出版事業
株式会社出版デジタル機構	59,066	出版事業

当事業年度（自平成28年4月1日 至平成29年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

顧客の氏名又は名称	売上高(千円)	関連するセグメント名
株式会社星雲社	2,251,885	出版事業
株式会社出版デジタル機構	453,861	出版事業

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

財務諸表提出会社の役員及び個人主要株主等

前事業年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

関連当事者との間における重要な取引がないため、記載を省略しております。

当事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

関連当事者との間における重要な取引がないため、記載を省略しております。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
1年以内に返済予定の長期借入金	51,272	42,732	0.56	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	77,917	53,229	0.69	平成30年～32年
合計	129,189	95,961	-	-

(注) 1. 平均利率については、借入金の当期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)の貸借対照表日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	34,421	18,808	-	-

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
賞与引当金	16,986	23,629	16,986	-	23,629
返品調整引当金	491,730	436,579	491,730	-	436,579

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2)【主な資産及び負債の内容】

流動資産

イ．現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	-
預金	
普通預金	2,478,034
合計	2,478,034

ロ．売掛金

相手先別内訳

相手先	金額(千円)
株式会社星雲社	1,678,586
株式会社出版デジタル機構	133,706
Apple Inc.	15,731
Google Inc.	13,040
その他	13,686
合計	1,854,750

売掛金の発生及び回収ならびに滞留状況

当期首残高 (千円)	当期発生高 (千円)	当期回収高 (千円)	当期末残高 (千円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	$\frac{(A) + (D)}{2}$ $\frac{(B)}{365}$
2,039,382	2,988,261	3,172,893	1,854,750	63.1	237.8

(注) 当期発生高には消費税等が含まれております。

ハ．製品

品目	金額(千円)
書籍	155,663
合計	155,663

ニ．仕掛品

品目	金額(千円)
制作中書籍	68,237
合計	68,237

流動負債
 イ．買掛金

相手先	金額(千円)
大日本印刷株式会社	31,270
図書印刷株式会社	20,583
中央精版印刷株式会社	15,364
有限会社雄物川印刷	4,862
株式会社廣濟堂	3,269
株式会社暁印刷	2,609
合計	77,960

ロ．未払金

区分	金額(千円)
国内書籍に対する印税	235,871
出版物販売流通業務委託費	79,850
ゲーム開発・運用費	22,482
イラスト・デザイン費等	11,273
漫画原稿料	8,561
ソフトウェア制作費	2,230
その他	21,104
合計	381,375

(3) 【その他】

当事業年度における四半期情報等

(累計期間)	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	当事業年度
売上高 (千円)	652,111	1,311,518	2,248,372	3,185,536
税引前四半期 (当期) 純利益金額 (千円)	37,931	79,272	169,966	175,242
四半期 (当期) 純利益金額 (千円)	23,638	49,402	107,053	101,098
1 株当たり四半期 (当期) 純利益金額 (円)	4.88	10.20	22.10	20.87

(会計期間)	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期
1 株当たり四半期純利益金額 (円)	4.88	5.32	11.90	1.23

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から 3月31日まで
定時株主総会	毎事業年度終了後3ヶ月以内
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	-
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当会社の公告方法は、電子公告としております。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることが出来ない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。なお、電子公告は当社ウェブサイトに掲載しており、そのアドレスは以下のとおりです。 http://www.alphapolis.co.jp/
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 1. 当社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない旨を定款に定めております。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 取得請求権付株式の取得を請求する権利
- (3) 募集株式又は募集新株予約権の割当てを受ける権利

2. 平成27年12月1日より株主名簿管理人を三井住友信託銀行株式会社に変更しております。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

第16期（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）平成28年6月24日関東財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成28年6月24日関東財務局長に提出。

(3) 四半期報告書及び確認書

第17期第1四半期（自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日）平成28年8月10日関東財務局長に提出。

第17期第2四半期（自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日）平成28年11月11日関東財務局長に提出。

第17期第3四半期（自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日）平成29年2月13日関東財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

平成29年6月2日に関東財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の4に基づく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成29年 6月30日

株式会社 アルファポリス

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 芝田 雅也 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 坂東 正裕 印

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社アルファポリスの平成28年4月1日から平成29年3月31日までの第17期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社アルファポリスの平成29年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社アルファポリスの平成29年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社アルファポリスが平成29年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。